



各小中学校にプールがないことは行政サービスの後退なのか



川越市では公共施設マネジメント計画において、2025年までに4つの小中学校について更新の検討をすることになっていますが、現時点で詳細な検討には入れておらず、現状を分析するための基礎資料データを集めている段階です。

全国の自治体を見ると、近年、学校施設の更新を機に学校内のプール施設を廃止し、民間のスイミングスクールと契約し水泳の授業を行う自治体が増えてきました。建築費、維持管理費等がかさむことだけでなく、多くは屋外のため使用は天候に左右され、夏季の一時期に限ったの使用に限られます。何より、水泳専門のスタッフを揃えるスイミングスクールでの授業は子供たちの水泳上達につながるメリットもあります。近隣にそのような施設があるのか、送迎やそれに伴う時間等の課題もありますが、有効な選択肢であると考えます。



こうした選択をした自治体の多くは、バスによる送迎、夏季だけではなく年間を通したカリキュラム編成等を導入し授業展開しているようで、評判も上々のようです。送迎が可能であれば、民間施設が近隣にない場合は、一つの学校(公共)プールを複数の学校で使用するようなこともできるはずですが。

検討にあたっては、当然、本市の現状を詳細に分析した上で、すべてそのまま新しく施設更新するのか、民間施設の利用も考えるのか等を判断していく必要があります！

皆様の声 届けます！

皆様から頂いたご指摘、ご要望を行政に伝え、必要な改善を求めて参ります。お気軽にご連絡下さい。

え、必要な改善を求めて参ります。お気軽にご連絡下さい。

幼児や低学年児が多いと、公園と河川の間
に注意喚起看板及びネットを設置

公園の壊れた遊具の修繕と安全対策
(写真は伊佐沼冒険の森)



修繕前



修繕後

提案型地域情報誌グリーンズ川越は、2003年より政治を身近にしていけるための活動の1つとして始め、2007年からは議員活動報告をプラスし、私の考え方と共に皆様にお届けしているニュースです。なお、手配りのためにタイムリーにお届けできない場合がありますがご了承下さい。バックナンバーをご希望の場合はお届けします。ホームページでも見ることができます。[川口けいすけ]で検索！

子ども達に五感で感じる体験を！

10月23日、環境政策課主催の「古谷湿地さかな観察会」が2年ぶりに実施され、私も参加させていただきました。(対象は3年生以上の親子)

普段は入ることができない川越市唯一、湿地と呼ばれる豊かな自然環境の中で、今年は子供たちも川に入り、魚やエビなど多くの種類の生き物を捕まえ観察し、生物の多様性や、自然と人間との係わりなどを肌で感じられる機会になったのではないかと思います。

今年も、かわごえ環境ネットの皆さんにボランティアとして参加していただきました。

来年以降は低学年も対象に！と要望中！



この紙面の配布にご協力いただける方は、下記までご連絡いただければ幸いです(範囲・枚数は出来る限りで結構です)。
TEL 080-3025-5776 E-mail kawaguchi-keisuke@outlook.com





